

平成30年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	栃木県		市町村類型	Ⅲ-1	指定団体等の指定状況		区分		平成30年度(千円)		平成29年度(千円)		区分		平成30年度(千円・%)		平成29年度(千円・%)				
					財政健全化等	×	歳入総額	51,837,102	50,316,473	実質収支比率	7.8	7.0									
市町村名	那須塩原市		地方交付税種地	1-3	財源超過	×	歳出総額	49,341,186	47,648,702	経常収支比率	97.5	93.7									
					首都	○	歳入歳出差引	2,495,916	2,667,771	(※1)	(104.2)	(99.3)									
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	368,089	760,361	標準財政規模	27,414,501	27,403,079									
人口	27年国調(人)	117,146	産業構造(※5)		中部	×	実質収支	2,127,827	1,907,410	財政力指数	0.81	0.80									
	22年国調(人)	117,812			過疎	×	単年度収支	220,417	-104,831	公債費負担比率	14.1	14.3									
	増減率(%)	-0.6			山振	○	積立金	990,271	1,071,744	健全化判断比率	-	-									
住民基本台帳人口(※7)	31.01.01(人)	117,653	第1次	27年国調	3,912	3,673	低開発	○	積立金取崩し額	1,182,000	1,080,000	実質赤字比率	-	-							
	うち日本人(人)	115,556		6.9	6.6	指数表選定	○	実質単年度収支	28,688	-113,087	連結実質赤字比率	-	-								
	30.01.01(人)	117,902	第2次	18,344	18,371	基準財政収入額	16,768,469	16,246,393	資金不足比率(※4)	-	-										
	うち日本人(人)	116,015		32.1	33.1	基準財政需要額	20,447,684	20,234,815	実質公債費比率	4.2	3.8										
	増減率(%)	-0.2	第3次	34,836	33,449	標準税収入額等	21,520,308	20,830,472	将来負担比率	-	-										
	うち日本人(%)	-0.4		61.0	60.3	経常経費充当一般財源等	27,207,276	26,540,382													
	面積(km ²)	592.74				歳入一般財源等	33,139,654	33,842,915													
人口密度(人/km ²)	198																				
世帯数(世帯)	45,608																				
職員の状況																					
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	34,169,613	33,399,238										
	市区町村長	1	9,600		一般職員	715	2,185,755	3,057	うち公的資金	17,906,828	15,698,124										
	副市区町村長	2	7,550		うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	13,577,728	12,650,643										
	教育長	1	6,850		うち技能労務職員	42	139,902	3,331	収益事業収入	-	-										
	議会議長	1	5,100		教育公務員	14	54,362	3,883	土地開発基金現在高	303,606	303,595										
	議会副議長	1	4,500		臨時職員	-	-	-	財政調整基金	5,591,554	5,783,283										
	議会議員	24	4,200		合計	729	2,240,117	3,073	減債基金	1,665,486	1,665,028										
					ラスパイレシ指数			99.6		その他特定目的基金	9,054,450	8,649,767									
	一般会計等の一覧																				
	項番	会計名	事業会計の一覧			公営企業(法通)の一覧			公営企業(法非通)の一覧			関係する一部事務組合等一覧			地方公社・第三セクター等一覧						
(1) 一般会計		(3) 国民健康保険特別会計		(6) 那須塩原市水道事業会計		(7) 那須塩原市下水道事業特別会計		(11) 那須地区広域事務組合(一般会計)		(21) 那須野が原文化振興財団											
(2) 墓地事業特別会計		(4) 介護保険特別会計				(8) 那須塩原市農業集落排水事業特別会計		(12) 那須地区広域事務組合(広域クリーンセンター大田原事業特別会計)		(22) まちづくりになすの											
		(5) 後期高齢者医療特別会計				(9) 那須塩原市温泉事業特別会計		(13) 那須地区広域事務組合(黒羽グリーンオアシス事業特別会計)		(23) 那須塩原市農業公社											
						(10) 那須塩原市産業団地造成特別会計		(14) 那須地区広域事務組合(共同一般最終処分場整備事業特別会計)		(24) 那須塩原市文化振興公社											
								(15) 那須地区広域事務組合(と畜場事業特別会計)													
								(16) 那須地区消防組合													
								(17) 黒磯那須共同火葬場組合													
								(18) 黒磯那須公設地方卸売市場事務組合													
								(19) 栃木県市町村事務組合(一般会計)													
								(20) 栃木県市町村事務組合(特別会計)													

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補償等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	19,363,722	37.4	18,899,323	72.4	普通税	18,767,646	96.9	341,219
地方譲与税	419,805	0.8	419,805	1.6	法定普通税	18,767,646	96.9	341,219
利子割交付金	23,995	0.0	23,995	0.1	市町村民税	7,893,902	40.8	341,219
配当割交付金	51,025	0.1	51,025	0.2	個人均等割	222,389	1.1	-
株式等譲渡所得割交付金	46,002	0.1	46,002	0.2	所得割	5,900,827	30.5	-
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	457,409	2.4	77,254
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	法人税割	1,313,277	6.8	263,965
地方消費税交付金	2,265,722	4.4	2,265,722	8.7	固定資産税	9,510,049	49.1	-
ゴルフ場利用税交付金	36,584	0.1	36,584	0.1	うち純固定資産税	9,428,846	48.7	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	361,055	1.9	-
自動車取得税交付金	150,823	0.3	150,823	0.6	市町村たばこ税	1,002,640	5.2	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	釧産税	-	-	-
地方特例交付金	93,040	0.2	93,040	0.4	特別土地保有税	-	-	-
地方交付税	4,764,782	9.2	4,050,224	15.5	法定外普通税	-	-	-
普通交付税	4,050,224	7.8	4,050,224	15.5	目的税	596,076	3.1	-
特別交付税	691,665	1.3	-	-	法定目的税	596,076	3.1	-
震災復興特別交付税	22,893	0.0	-	-	入湯税	131,677	0.7	-
(一般財源計)	27,215,500	52.5	26,036,543	99.7	事業所税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	12,749	0.0	12,749	0.0	都市計画税	464,399	2.4	-
分担金・負担金	254,118	0.5	-	-	水利地益税等	-	-	-
使用料	546,131	1.1	23,286	0.1	法定外目的税	-	-	-
手数料	464,833	0.9	-	-	旧法による税	-	-	-
国庫支出金	7,205,546	13.9	-	-	合計	19,363,722	100.0	341,219
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-				
都道府県支出金	4,001,001	7.7	-	-				
財産収入	197,863	0.4	-	-				
寄附金	248,452	0.5	-	-				
繰入金	1,655,481	3.2	-	-				
繰越金	2,667,771	5.1	-	-				
諸収入	2,057,057	4.0	38,156	0.1				
地方債	5,310,600	10.2	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	1,800,000	3.5	-	-				
歳入合計	51,837,102	100.0	26,110,734	100.0				

区分		平成30年度	平成29年度
徴収率	現・計	98.6	93.1
(%)	年	98.7	95.3
		98.4	91.2
		98.6	94.5
		98.2	90.2

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	4,765,407	実質収支	595,318
下水道	1,392,951	再差引収支	575,982
上水道	87,159	加入世帯数(世帯)	17,757
宅地造成	25,116	被保険者数(人)	29,834
と畜場	23,259	被保険者	102
国民健康保険	882,162	1人当り	保険税(料)収入額
その他	2,354,760		国庫支出金
			保険給付費
			284

歳入の状況(単位:千円・%)					
目的別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	330,374	0.7	-	330,374	
総務費	5,660,867	11.5	97,593	4,912,824	
民生費	15,859,245	32.1	424,074	7,956,072	
衛生費	3,387,775	6.9	147,009	2,749,271	
労働費	56,567	0.1	-	56,567	
農林水産業費	1,948,893	3.9	949,560	689,591	
商工費	1,954,804	4.0	22,139	725,990	
土木費	5,607,029	11.4	3,128,136	2,539,240	
消防費	1,815,544	3.7	71,918	1,744,443	
教育費	7,989,523	16.2	3,130,781	4,266,052	
災害復旧費	-	-	-	-	
公債費	4,730,565	9.6	-	4,673,314	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	49,341,186	100.0	7,971,210	30,643,738	

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	21,636,463	43.9	14,576,982	14,526,237	52.0
人件費	6,299,460	12.8	5,904,584	5,854,446	21.0
うち職員給	4,107,195	8.3	3,774,755	-	-
扶助費	10,606,438	21.5	3,999,084	3,998,477	14.3
公債費	4,730,565	9.6	4,673,314	4,673,314	16.7
元利償還金	4,730,561	9.6	4,673,310	4,673,310	16.7
内 うち元金	4,540,225	9.2	4,484,409	4,484,409	16.1
訳 うち利子	190,336	0.4	188,901	188,901	0.7
一時借入金利子	4	0.0	4	4	0.0
その他の経費	19,733,513	40.0	15,326,751	12,681,039	45.4
物件費	7,486,103	15.2	5,577,374	5,178,539	18.6
維持補修費	479,988	1.0	446,100	428,323	1.5
補助費等	4,308,825	8.7	3,820,732	3,257,365	11.7
うち一部事務組合負担金	1,819,712	3.7	1,796,912	1,659,086	5.9
繰出金	4,678,248	9.5	4,073,546	3,816,812	13.7
積立金	1,659,795	3.4	1,408,999	-	-
投資・出資金・貸付金	1,120,554	2.3	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	7,971,210	16.2	740,005	-	-
うち人件費	165,661	0.3	165,661	-	-
普通建設事業費	7,971,210	16.2	740,005	-	-
うち補助	4,580,235	9.3	152,970	-	-
うち単独	3,351,424	6.8	578,083	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	49,341,186	100.0	30,643,738	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

平成30年度 栃木県那須塩原市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	51,824	49,329	2,495	2,127	1,657	34,170	
2 墓地事業特別会計	5	4	1	1	-	-	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297					</		

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	117,653	人(※31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	115,556	人(※31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	592.74	km ²	実質公債費比率	4.2	%
歳入総額	51,837,102	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	49,341,186	千円	市町村類型	H26 Ⅲ-1 H27 Ⅲ-1 H28 Ⅲ-1	
実質収支	2,127,827	千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1	
標準財政規模	27,414,501	千円			
地方債現在高	34,169,613	千円			

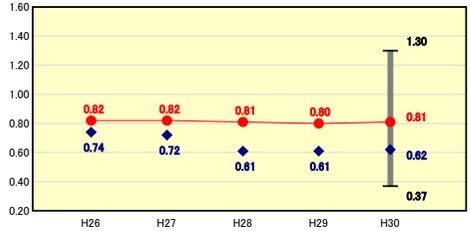


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

財政力

財政力指数 [0.81]

類似団体内順位 4/21 全国平均 0.51 栃木県平均 0.74

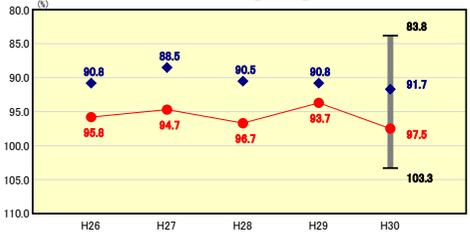


財政力指数の分析欄
 財政力指数は、標準的な行政活動を行うために必要な財源をどの程度自力調達できるかの割合を示すものである。本市においては、栃木県平均及び類似団体平均を上回っている状況である。これは、大規模工場があることから、市町村民税法人税割及び償却資産に係る固定資産税が類似団体と比較し多額であることから、市税収入などの自主財源が比較的充実していることが主な理由である。また、平成30年度は、平成29年度市町村民税法人税割の大幅な増(+4.8億円、前年度比+82.3%)などにより基準財政収入額が増加したため、前年度(0.80)に比べ0.01ポイント上昇した。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [97.5%]

類似団体内順位 20/21 全国平均 93.0 栃木県平均 91.8



経常収支比率の分析欄
 経常収支比率は、扶助費や物件費などの経常的な経費に、地方税や地方交付税などの一般財源がどの程度充てられたのかを表す指標である。本市は、県平均及び類似団体平均を上回っており、財政構造の硬直化の度合いが高いと言える。これは、物件費の増(+6.4億円)などにより経常的な経費が増加(+6.7億円)したことに加え、地方交付税の減(△5.0億円)などにより一般財源が減少(△6.1億円)したことによる。物件費は歳出総額に占める割合が県内市で最も高く、その中でも教育費が占める割合が高いため、費用対効果を検証し、効果の低い経費を削減するなど費用抑制に努める。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [117,833円]

類似団体内順位 9/21 全国平均 132,793 栃木県平均 115,695

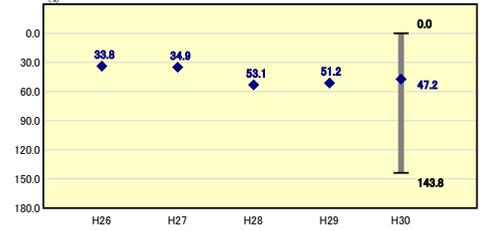


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 県平均と同程度であり、類似団体平均を約6千円/人下回っている状況である。平成24～26年度までは住宅除染業務などの放射能対策関連経費の増加により、類似団体平均を上回っていたが、平成27年度からは、放射能対策関連事業の縮小により県平均と同程度となった。また、前年度に比べ決算額が多くなった要因は、ごみ処理施設の管理運営費の増(+4.3億円)などである。物件費は、前述の管理運営費以外の観光施設の管理運営経費などの商工費が占める割合が高い傾向にあるため、公共施設等総合管理計画に基づき施設等の統廃合を行うことで物件費の逓減に努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [-%]

類似団体内順位 1/21 全国平均 28.9 栃木県平均 0.4

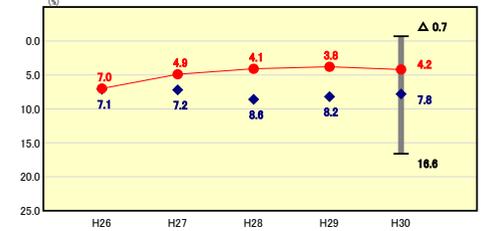


将来負担比率の分析欄
 将来負担比率は、出資法人等を含めた一般会計等の実質的負債の標準財政規模に対する比率を示し、地方公共団体の将来的な負担の程度を把握する指標である。本市は、市債等の将来負担額よりも、基金や国県支出金などの特定財源総額が上回っているため、0.0%となっており、県平均及び類似団体平均と比べて、ストック面の財政状況は良好である。これは、地方債残高が増加(+7.7億円)したが、公共施設等有効活用基金積立などの充当可能基金残高がより増加(+16.2億円)したことが主な理由である。今後も計画的な財政運営を行うことにより、財政の一層の健全化を図る。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [4.2%]

類似団体内順位 3/21 全国平均 6.1 栃木県平均 5.8

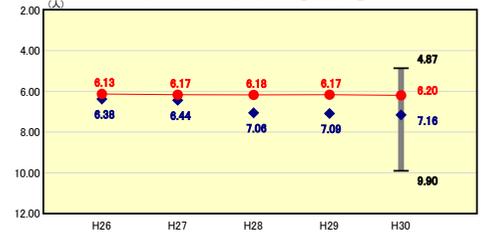


実質公債費比率の分析欄
 実質公債費比率は、一般会計等が支払う元利償還金に特別会計や一部事務組合等が支払う元利償還金に対する繰入金等を加えた金額の標準財政規模に対する割合を示し、公債費(借入金の返済)による財政負担の程度を把握する指標である。平成30年度は、那須地区消防組合における地方債の増加(庁舎建設)による負担金の増加などにより、実質公債費比率が前年度に比べ0.4ポイント上昇したが、引き続き県平均及び類似団体平均を大きく下回っている状況である。今後も財政措置のある地方債を優先的かつ計画的に活用した財政運営を行い、財政の一層の健全化を図る。

定員管理の状況

人口1,000人当たり職員数 [6.20人]

類似団体内順位 5/21 全国平均 7.95 栃木県平均 6.80

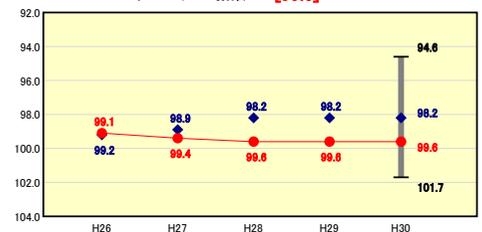


人口1,000人当たり職員数の分析欄
 県平均を0.60ポイント、類似団体平均を0.96ポイント下回っている。これは、し尿処理や消防業務などを一部事務組合で行っていることや保育園の民営化などにより類似団体より職員数が少ないことが主な理由となっている。今後においても、平成29年3月に策定した第3次定員適正化計画(平成29年度～令和3年度)に基づき、更なる効率的かつ効果的な財政運営を図るため、適正な定員管理に取り組む。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレス指数 [99.6]

類似団体内順位 17/21 全国市平均 98.9 全国町村平均 96.3



ラスパイレス指数の分析欄
 全国市平均を0.7ポイント、類似団体平均を0.4ポイント上回っている。経年数階層内における職員分布が変わったことによりラスパイレス指数が引き上がったが、高齢・高齢者の退職や職種区間の人事異動によりラスパイレス指数が引き下がり、結果として前年度と比較して増減なしとなった。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

栃木県那須塩原市

経常収支比率の分析

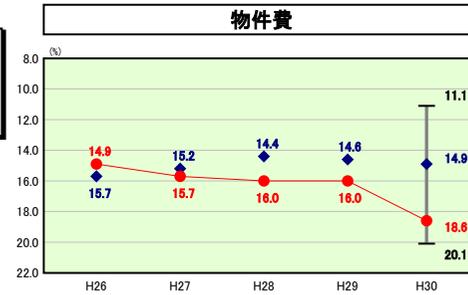
人口	117,653	人(H31.1.1現在)	-	%
うち日本人	115,556	人(H31.1.1現在)	-	%
面積	592.74	km ²	-	%
歳入総額	51,837,102	千円	4.2	%
歳出総額	49,341,186	千円	-	%
実収支	2,127,827	千円	-	%
標準財政規模	27,414,501	千円	-	%
地方債現在高	34,169,613	千円	-	%

実質赤字比率	-	%
連結実質赤字比率	-	%
実質公債費比率	4.2	%
将来負担比率	-	%

市町村類型	H26 Ⅲ-1	H27 Ⅲ-1	H28 Ⅲ-1
(年度毎)	H29 Ⅲ-1	H30 Ⅲ-1	

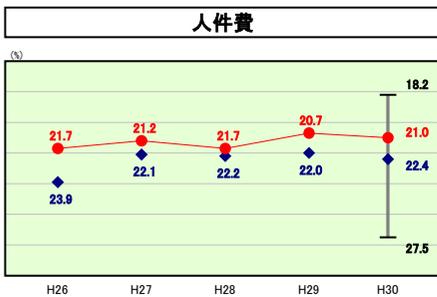


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



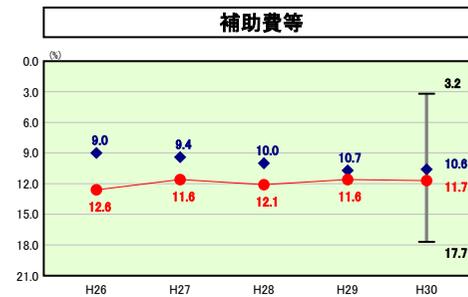
類似団体内順位 20/21 全国平均 14.7 栃木県平均 17.0

物件費の分析欄
 県平均を1.6ポイント、類似団体平均値を3.7ポイント上回っており、前年度と比較しても2.6ポイント上昇した。これは、ごみ処理施設の管理運営業務委託の更新により増加(+4.3億円)したことが主な要因である。今後についても、小中学校ICT事業において児童生徒1人1台端末の配備という国の方針が示されるなど増加が見込まれるため、公共施設等総合管理計画に基づき施設の統廃合を行うことなどにより、物件費の逓減に努める。



類似団体内順位 5/21 全国平均 25.6 栃木県平均 25.0

人件費の分析欄
 県平均を4.0ポイント、類似団体平均を1.4ポイント下回っている。これは、し尿処理や消防業務などを一部事務組合で行っていることや保育園の民営化などにより類似団体より職員数が少ないため、それに伴い人件費が低いことが主な理由である。また、経年比較においても、ほぼ横ばいで推移しており、適正な定員管理が行えている。今後は、RPA導入などにより人件費の逓減を図るとともに、職員1人1人の質の向上に努める。



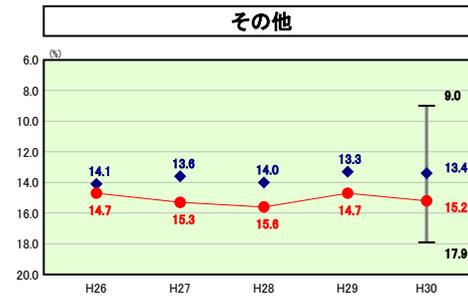
類似団体内順位 11/21 全国平均 10.2 栃木県平均 8.8

補助費等の分析欄
 県平均や類似団体平均を上回っており、前年度と比較するとほぼ横ばいの状況である。今後の見直しも主要な経費である消防組合負担金において消防施設建設の予定があるため、現状維持である。本市は、消防業務・し尿処理・火葬場の運営等を一部事務組合で実施しており、構造的に組合負担金が多くなる。については、市単独補助金に対し、第三者による審査会を設置し平成30年度から令和2年度で見直しを図り、逓減に努める。



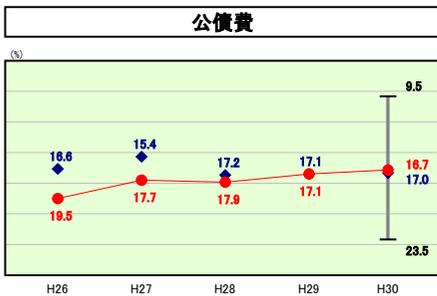
類似団体内順位 14/21 全国平均 12.6 栃木県平均 12.3

扶助費の分析欄
 県平均や類似団体平均を上回っており、前年度と比較しても0.5ポイント上昇した。その要因は、保育所等施設とその利用者が類似団体と比較して多いためであり、障害福祉サービス利用者や障害児通所支援受給者数が年々増加しているためである。それにより、民間保育施設運営支援事業が増加(+1.6億円)し、障害者福祉サービス給付事業も増加(+1.7億円)している状況であり、今後もこの傾向が続くと見込まれる。



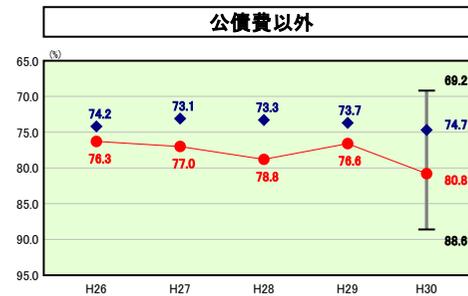
類似団体内順位 18/21 全国平均 13.3 栃木県平均 13.7

その他の分析欄
 県平均や類似団体平均を上回っている。前年度と比較すると0.5ポイント上昇しており、道路維持管理費の増加(+0.4億円)が主な理由である。本市は有形固定資産減価償却率が低いため、施設老朽化の度合いが低いと言えるが、今後の老朽化に伴い、維持管理費が増加する見込みである。については、下水道事業特別会計の法道化を行うことで、経営の健全化を進め、継続して高い傾向にある下水道事業への繰出金の抑制を図る。



類似団体内順位 11/21 全国平均 16.6 栃木県平均 15.0

公債費の分析欄
 県平均を1.7ポイント上回り、類似団体平均と同水準である。前年度より0.4ポイント減少したのは、旧合併特例事業債や臨時地方道整備事業債などの償還が平成29年度までに一部終了したためである。また年々減少しているのは、中・長期財政の見直しにおいて市債発行額の抑制を配慮すべき事項に掲げ、また平成29年度からは公共施設等の耐用年数に合わせた償還期間に設定を見直し、平準化によるの抑制を図っているためである。



類似団体内順位 19/21 全国平均 76.4 栃木県平均 76.8

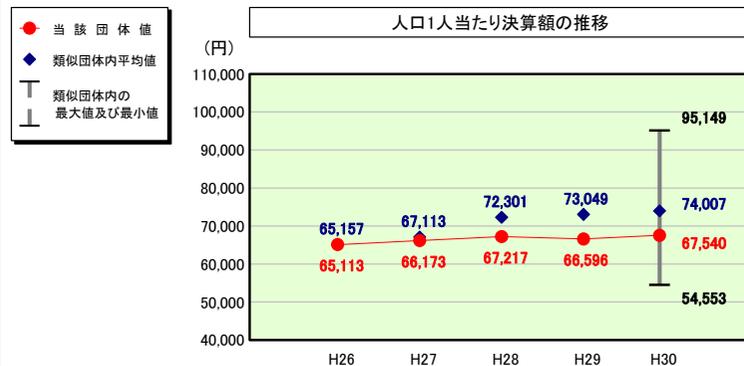
公債費以外の分析欄
 県平均及び類似団体平均を大きく上回っている。これは、物件費が多いことが主な要因であり、経年比較をすると、物件費は年々増加している。については、費用対効果を検証し、効果の低い経費を削減するなど経常経費の抑制を図るとともに、令和元年度で普通交付税における合併算定替が終了することを踏まえ、債権管理条例を制定するなど、収入未済額の圧縮を進め、市税等を中心とした自主財源の一層の充実にも努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成30年度

栃木県那須塩原市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

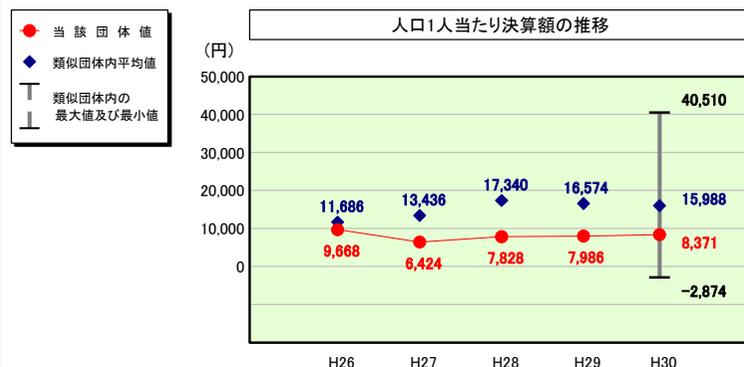
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	6,299,460	53,543	63,339	▲ 15.5
賃金(物件費)	565,007	4,802	4,956	▲ 3.1
一部事務組合負担金(補助費等)	1,205,381	10,245	5,936	72.6
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	1,530	13	914	▲ 98.6
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	276,949	2,354	2,492	▲ 5.5
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	165,661	1,408	2,050	▲ 31.3
▲退職金	▲ 567,754	▲ 4,826	▲ 5,679	▲ 15.0
合計	7,946,234	67,540	74,007	▲ 8.7

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.20	7.16	▲ 0.96
ラスパイレース指数	99.6	98.2	1.4

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

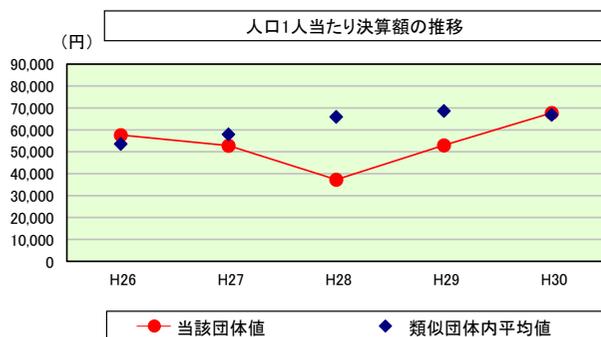


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	4,730,561	40,208	45,288	▲ 11.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	17	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,338,047	11,373	12,800	▲ 11.1
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	158,744	1,349	1,217	10.8
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	7,830	67	783	▲ 91.4
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	2	-
▲特定財源の額	▲ 492,319	▲ 4,185	▲ 4,392	▲ 4.7
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 4,757,988	▲ 40,441	▲ 39,728	1.8
合計	984,875	8,371	15,988	▲ 47.6

※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H26	6,832,562	57,651	4.2	53,605	5.4	▲ 1.2
H27	2,069,868	17,465	11.1	28,343	11.7	▲ 0.6
		6,244,188	52,779	▲ 8.5	58,051	8.3
H28	2,732,474	23,096	32.2	32,143	13.4	18.8
		4,405,176	37,303	▲ 29.3	65,942	13.6
H29	1,933,565	16,374	▲ 29.1	32,778	2.0	▲ 31.1
		6,250,466	53,014	42.1	68,655	4.1
H30	2,799,090	23,741	45.0	32,316	▲ 1.4	46.4
		7,971,210	67,752	27.8	66,863	▲ 2.6
過去5年間平均	3,351,424	28,486	20.0	32,770	1.4	18.6
		6,340,720	53,700	7.3	62,623	5.8
	2,577,284	21,832	15.8	31,670	5.4	10.4

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

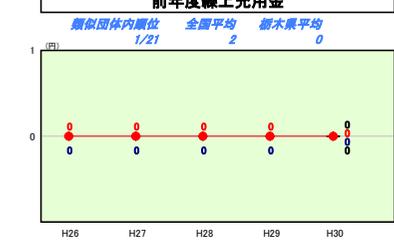
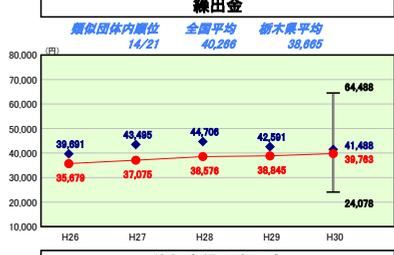
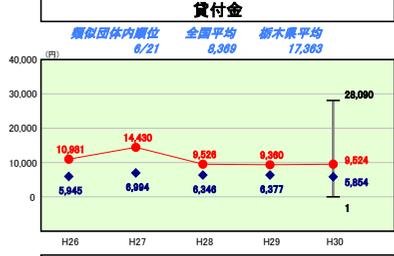
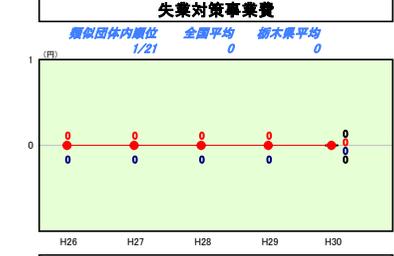
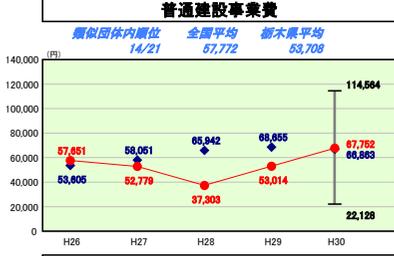
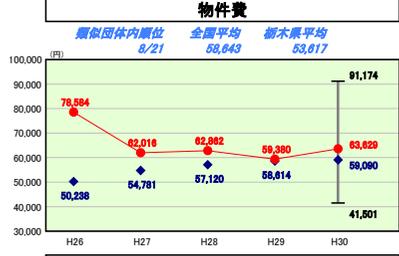
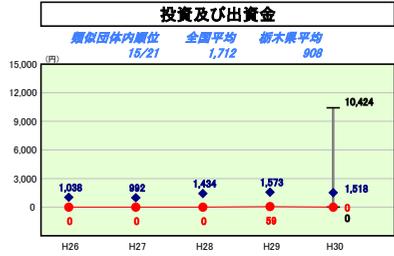
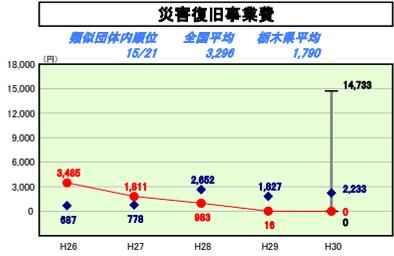
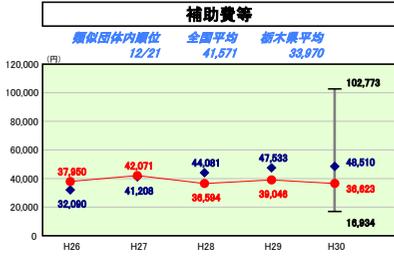
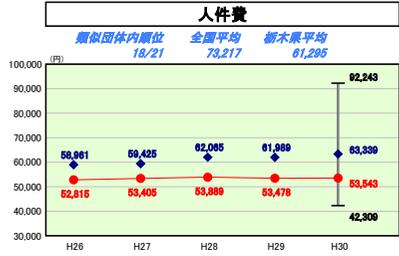
平成30年度

栃木県那須塩原市

人口	117,053人(081.1.1現在)	実収赤字比率	-	%
うち日本人	116,656人(081.1.1現在)	通給実収赤字比率	-	%
面積	592.74k㎡	実収公債費比率	4.2	%
歳入総額	51,837,102千円	実収負債比率	-	%
歳出総額	49,341,186千円	市町村類型	H26 III-1 H27 III-1 H28 III-1	
実収収支	2,495,916千円	(年度毎)	H29 III-1 H30 III-1	
標準財政規模	27,414,501千円			
地方債現在高	34,169,613千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

歳出決算総額は49,341,186千円であり、住民1人当たりに換算すると419千円/人である。主な構成項目のうち、物件費、普通建設事業費(うち更新整備)、貸付金は類似団体平均を上回り、その他の項目においては類似団体平均と同程度であるか下回っている状況である。
 扶助費は歳出総額の21.5%を占めているが、類似団体平均を下回る一方で、栃木県平均値を上回っている。経年比較をみると、増加傾向であり、これは障害福祉サービス利用者や障害児通所支援受給者数の増加による障害者福祉サービス給付事業の増(+1.7億円)や施設数の増加による民間保育施設運営支援事業の増(+1.6億円)が主な要因である。今後この傾向が続くと見込まれる。
 物件費は類似団体平均と同程度であるが、栃木県平均値を大きく上回っている。内容を類似団体平均と比較すると、委託料が高い傾向にあり、ごみ処理施設の管理運営業務委託料の更新による増(+4.3億円)が主な要因として挙げられる。この事業は長期継続契約によるため、一時的な増加ではなく、今後においても横ばいの見込みである。
 繰出金は、年々増加しており、平成30年度は下水道事業特別会計への繰出金が最も多い状況である。下水道事業においては、令和2年度から法適化を行うため、経営の健全化をより一層進めることで抑制を図る。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

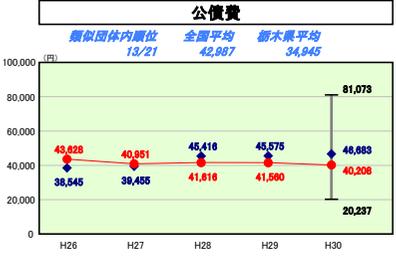
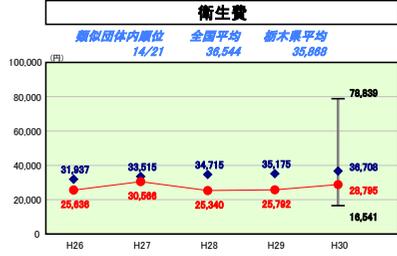
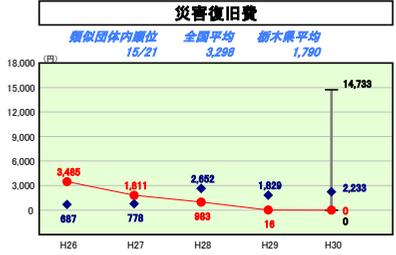
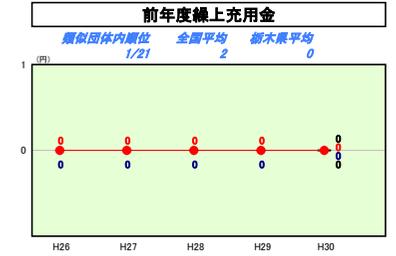
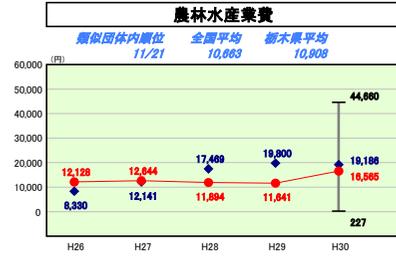
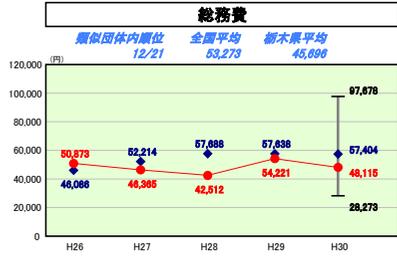
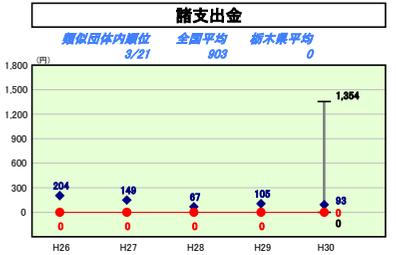
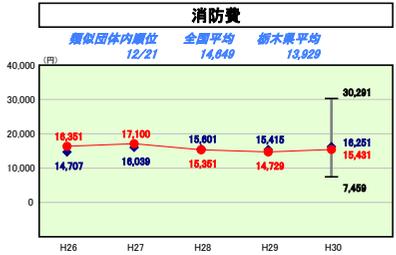
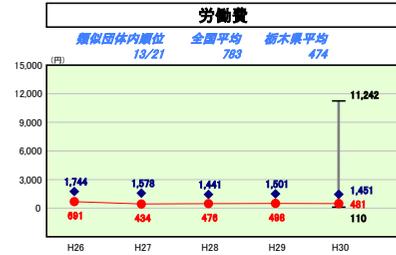
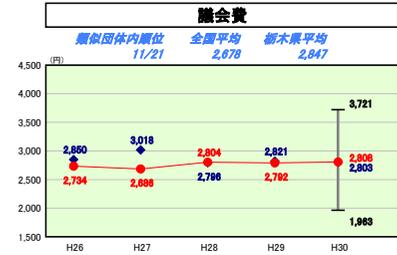
平成30年度

栃木県那須塩原市

人口	117,053 人(※1.1.1調査)	実質赤字比率	- %
うち日本人	116,656 人(※1.1.1調査)	連結実質赤字比率	- %
世帯数	592,714 世帯	実質公債費比率	4.2 %
歳入総額	51,837,102 千円	将来負担比率	- %
歳出総額	49,341,186 千円	市町村類型	H26 Ⅲ-1 H27 Ⅲ-1 H28 Ⅲ-1
実質収支	2,127,827 千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1
標準財政規模	27,414,501 千円		
地方債現在高	34,169,613 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

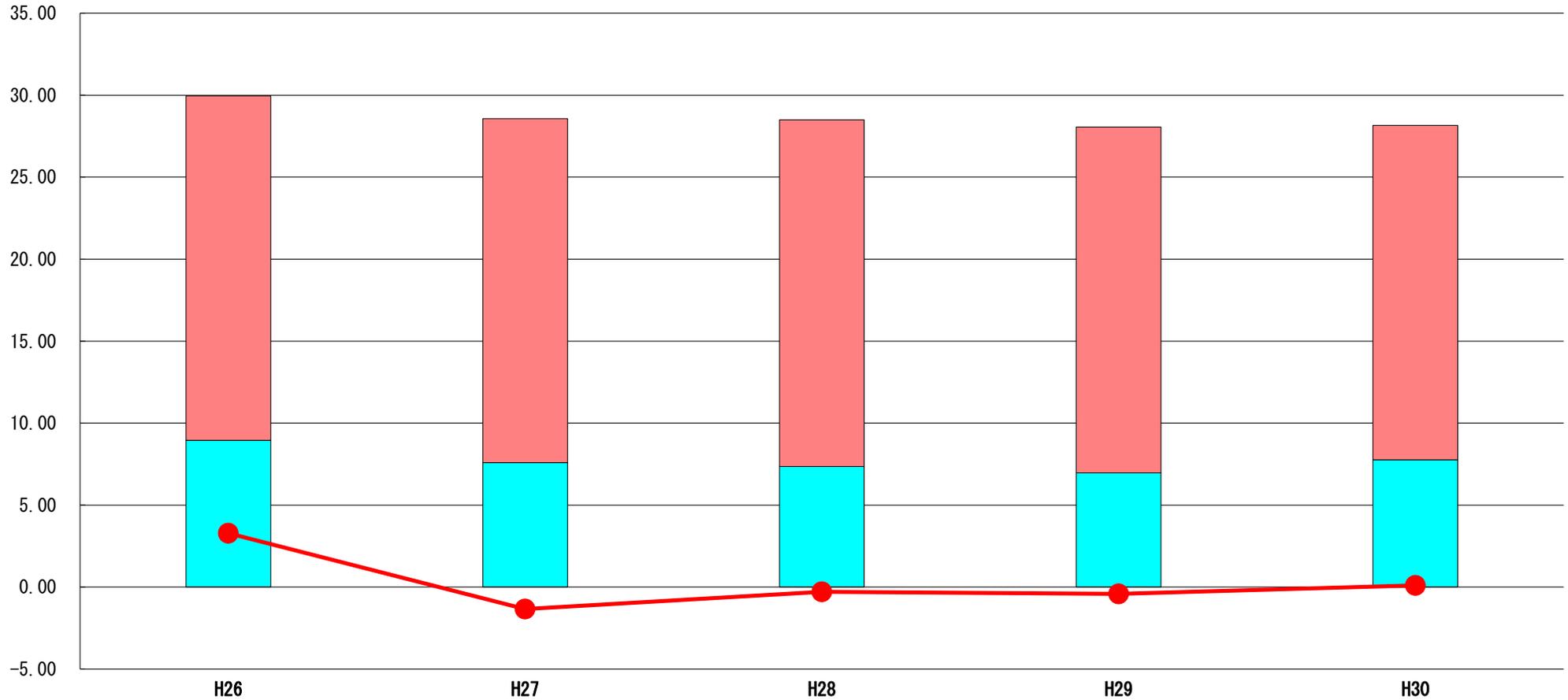
目的別で比較すると、県平均及び類似団体平均をともに上回っているのは教育費であり、前年度と比較しても大きく伸びている状況である。これは、学校給食共同調理場改善事業や中学校体育館改善事業を実施したことから前年度に比べて増加(+11.5億円)した主な理由である。また、英語教育の推進や小中学校ICT事業などの市独自の教育施策を推進しているため、県平均及び類似団体平均と比較して高止まりしている。教育分野の行政サービスが充実していると言えるが、今後において持続可能な財政運営を行っていくためにも、市の将来を担う子ども達に係る経費ではあるが、費用対効果を検証し、効果の低い経費を削減するなど費用抑制に努めていく必要がある。また、土木費においては、県平均や類似団体平均と同程度であるが、経年比較をすると年々上昇している。これは、平成26年度から平成30年度の5か年計画による駅周辺地区都市再生整備事業を実施していることが主な要因である。本市は有形固定資産減価償却率が低いため、施設老朽化の度合いが低いと言えるが、今後の老朽化に伴い、道路などの維持管理費が増加する見込みである。
 商工費については、類似団体平均を上回っている状況である。これは、平成30年度から新たに産業団地造成事業特別会計を設置したことによる繰出金(0.3億円)の発生による。また、主な事業としては観光施設の管理運営業務委託であるため、公共施設等総合管理計画に基づき施設等の統廃合を行うことで減減に努める。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成30年度

栃木県那須塩原市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H26	H27	H28	H29	H30
 財政調整基金残高		21.01	20.98	21.15	21.10	20.40
 実質収支額		8.95	7.59	7.35	6.96	7.76
 実質単年度収支		3.28	▲ 1.34	▲ 0.29	▲ 0.41	0.10

分析欄

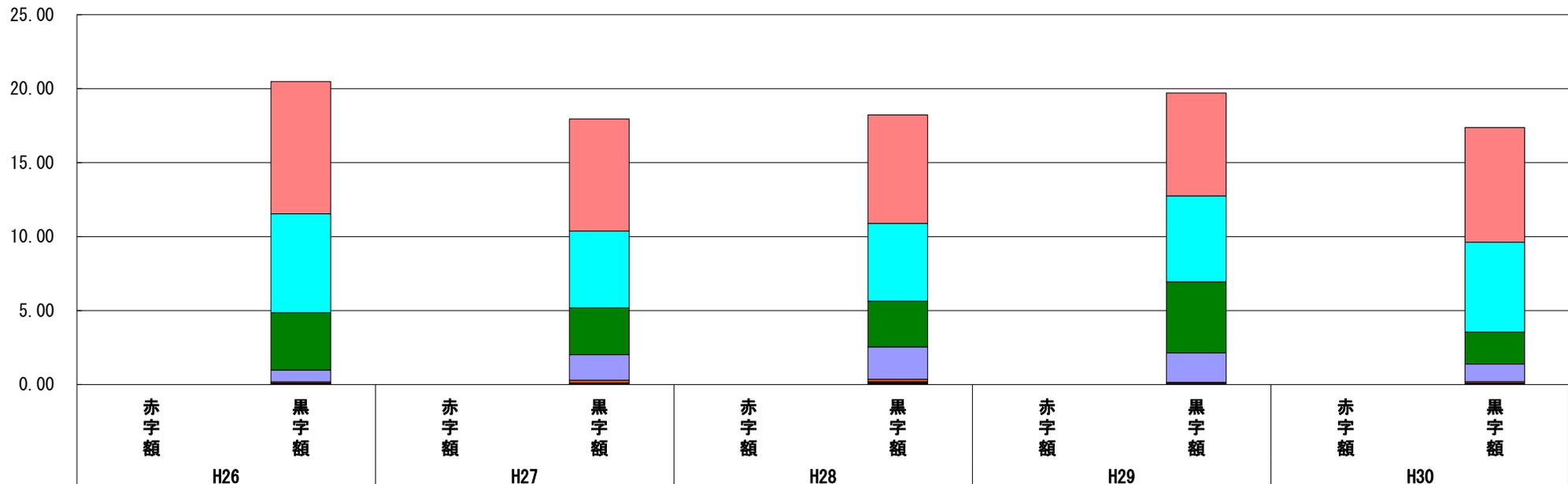
財政調整基金については、決算余剰金を積み立てるとともに、最低水準の取り崩しに努めている。
 黒磯駅周辺地区（仮称）駅前図書館等整備や共英学校給食共同調理場改築事業の進捗により歳出が増加したが、県支出金及び個人市民税等の増加により歳入総額が増加したため、実質単年度収支は前年度比で0.51（+141,775千円）ポイント増加した。
 普通交付税の合併算定替えによる逓減を見据え、安定した財政運営を行うため、引き続き財源の確保に努める。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成30年度

栃木県那須塩原市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H26	H27	H28	H29	H30
一般会計		8.94	7.57	7.33	6.95	7.75
那須塩原市水道事業会計		6.69	5.20	5.26	5.81	6.07
国民健康保険特別会計		3.87	3.16	3.09	4.81	2.17
介護保険特別会計		0.80	1.73	2.19	1.98	1.19
那須塩原市下水道事業特別会計		0.09	0.17	0.16	0.07	0.10
那須塩原市温泉事業特別会計		0.05	0.07	0.06	0.04	0.04
後期高齢者医療特別会計		0.03	0.02	0.07	0.02	0.03
那須塩原市農業集落排水事業特別会計		0.01	0.02	0.05	0.02	0.02
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.01	0.01	0.00	0.00

分析欄

平成30年度においてもすべての会計で赤字は発生していない。下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計においては、令和2年度から法適化を行い、経営の健全化を進め繰出金の抑制を図る予定だが、平成30年度における一般会計からの繰入金比率は下水道事業特別会計で42.5%、農業集落排水事業特別会計で60.2%と高く、一般会計からの繰入金に大きく依存している。

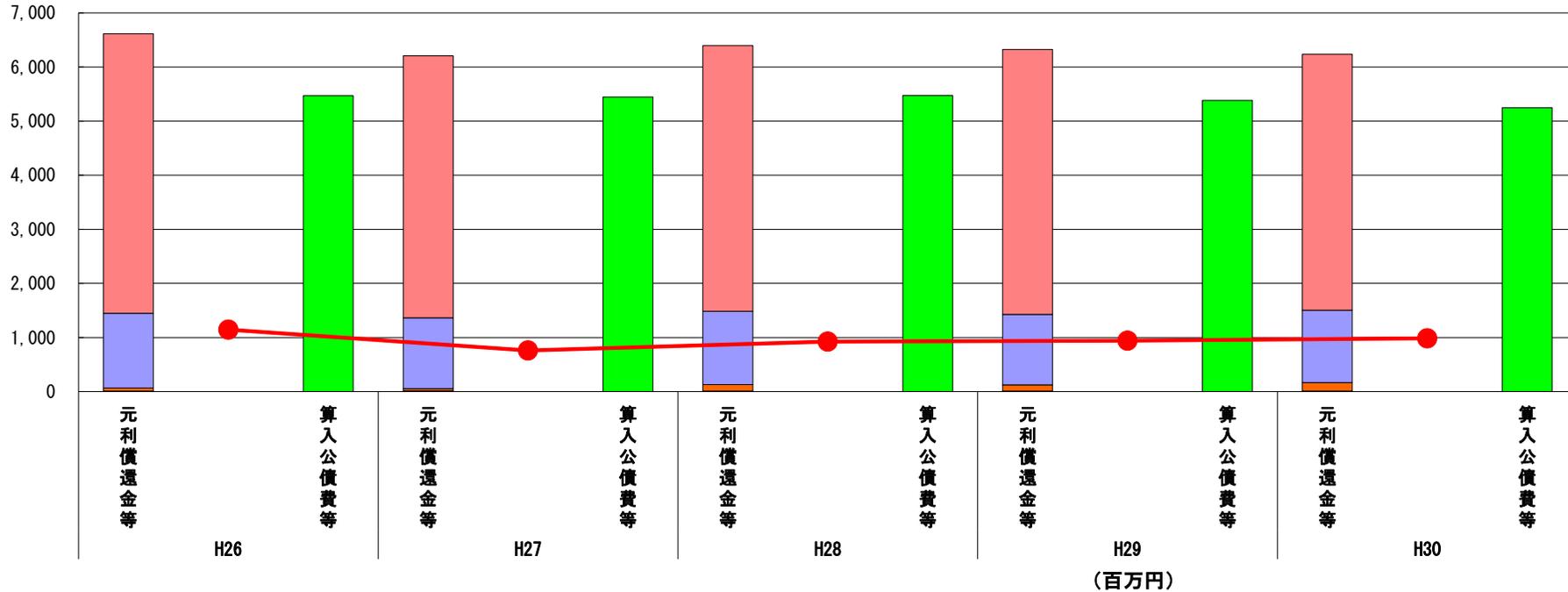
※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

栃木県那須塩原市

(百万円)



分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
元利償還金等 (A)	元利償還金		5,170	4,845	4,914	4,900	4,731
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,380	1,307	1,353	1,302	1,338
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		56	44	121	116	159
	債務負担行為に基づく支出額		10	12	10	8	8
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		5,471	5,448	5,474	5,385	5,250
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		1,145	760	924	941	986

分析欄

実質単年度公債費比率は、前年度から0.1ポイント増の4.3%となった。合併特例債事業の一部（平成19年度借入分）償還終了による元利償還金の減少はあったが、下水道特別会計に係る償還増額による準元利償還金の増加や那須地区消防組合における地方債の増加による一部事務組合への負担金の増加があった。また、標準財政規模は昨年度と同程度であったが、元利償還金・準元利償還金に係る標準財政需要額算入額が減少したことが要因である。市債償還期間の平準化及び市債発行の適正化のため市債発行額の総量管理に引き続き取り組み、計画的な財政運営に努める。

※1 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

※2 減債基金積立状況等		年度	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末
減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

満期一括償還地方債の借入がないため、該当の積み立ては行っていない。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

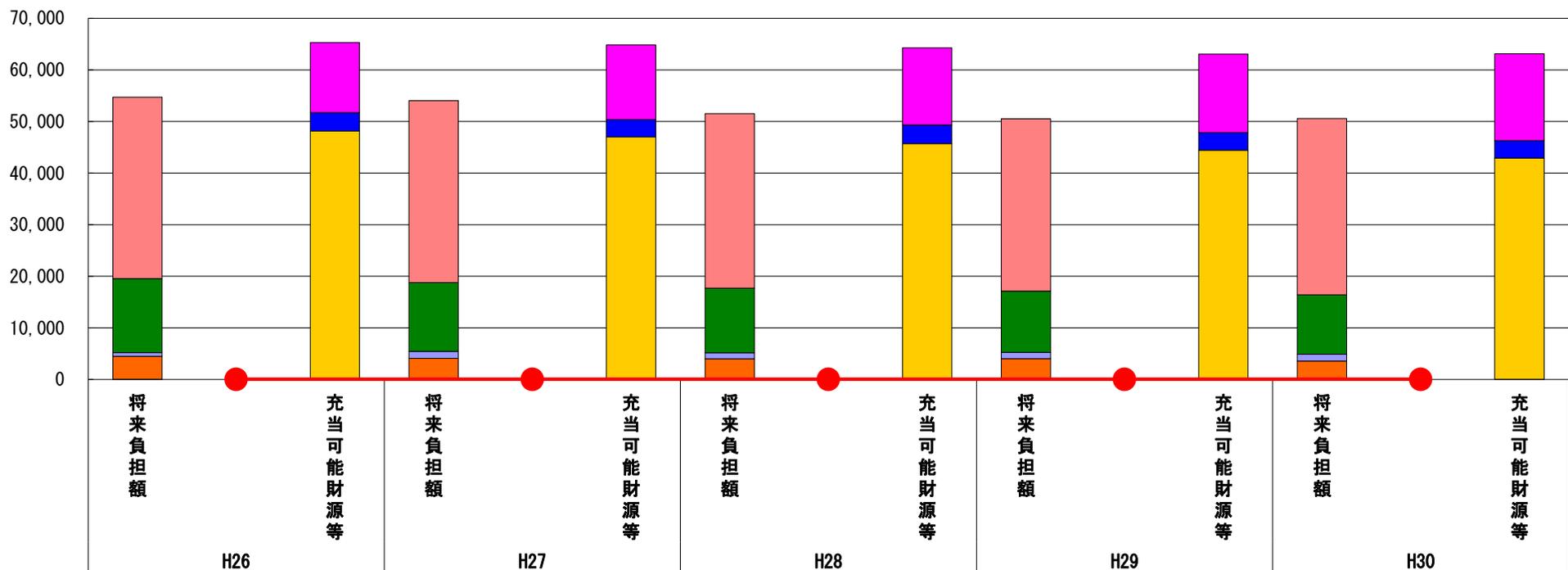
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成30年度

栃木県那須塩原市

(百万円)



(百万円)

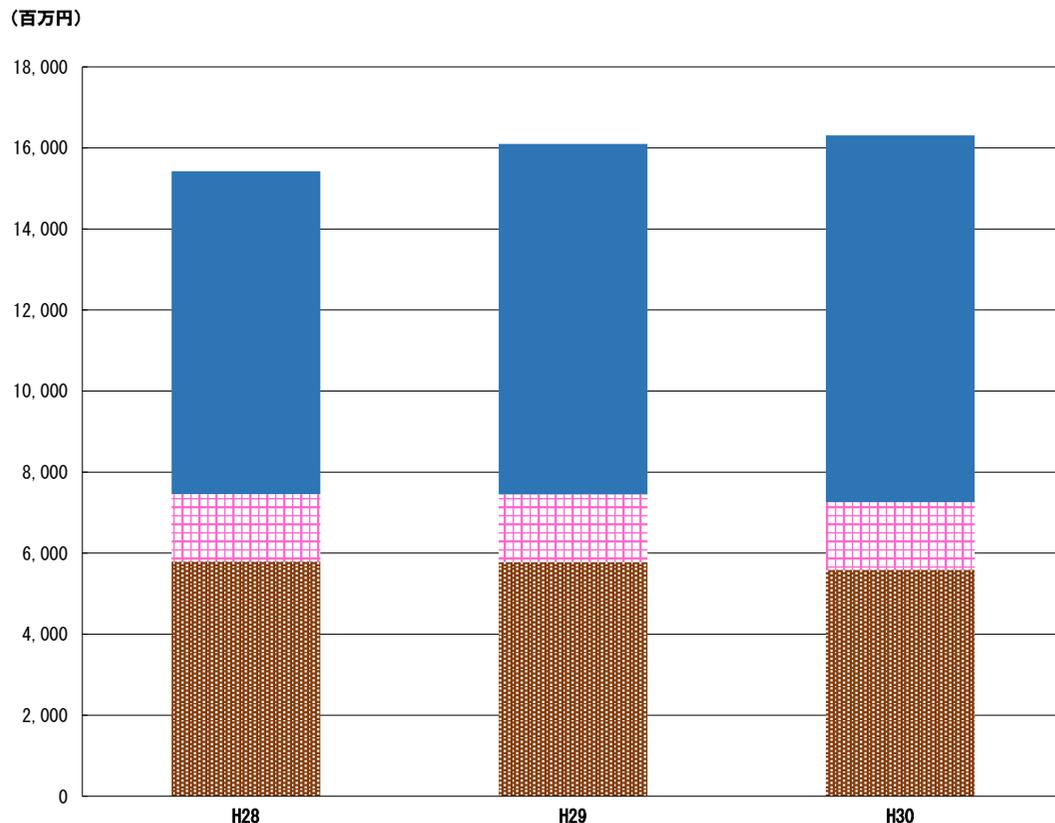
分子の構造		年度	H26	H27	H28	H29	H30
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		35,154	35,301	33,832	33,399	34,170
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		14,350	13,331	12,549	11,847	11,547
	組合等負担等見込額		721	1,344	1,158	1,247	1,304
	退職手当負担見込額		4,479	4,083	3,994	4,015	3,568
	設立法人等の負債額等負担見込額		1	0	0	0	1
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		13,557	14,453	14,951	15,195	16,817
	充当可能特定歳入		3,563	3,395	3,619	3,447	3,357
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 10,581	▲ 10,772	▲ 12,747	▲ 12,552	▲ 12,515

分析欄

前年度と比較して将来負担額は減少しており、平成23年度決算以降将来負担比率は生じていない。
 将来負担額の減については、地方債残高の増加に比べて公共施設等有効活用基金原資積立及び国民健康保険財政調整基金積立の額が多かったことから、将来負担額に充当可能な基金残高が増加したことが要因となっている。

※平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	H28	H29	H30
財政調整基金		5,792	5,783	5,592
減債基金		1,665	1,665	1,665
その他特定目的基金		7,968	8,650	9,054
新庁舎整備基金		2,872	3,645	3,743
合併振興基金		2,960	2,960	2,960
公共施設等有効活用基金		1,130	1,261	1,561
ふるさと基金		283	354	393
塩原地区温泉街活性化推進基金		181	178	176
基金残高合計		15,424	16,098	16,311

平成30年度

栃木県那須塩原市

基金全体

(増減理由)

財政調整基金を11億8,200万円、民間保育施設等整備支援事業に充てるために子ども未来基金を2,051万円を取り崩した一方で、地方財政法第7条の規定に基づき財政調整基金に9億8,900万円、新庁舎整備に充てるため新庁舎整備基金に1億2,000万円、公共施設等有効活用基金に3億円等の積み立てを行ったことにより基金全体の残高は増加した。

(今後の方針)

決算状況を踏まえ可能な範囲内での積み立てを行っていくものの、新庁舎整備事業や市町村合併に伴う財政優遇措置（普通交付税合併算定替による特例措置）の終了による財源の減少が見込まれることから、中長期的には減少傾向にある。

財政調整基金

(増減理由)

地方財政法第7条の規定に基づき9億8,900万円の積み立てを行った一方で、不足する財源を補うため11億8,200万円を取り崩したことにより減少した。

(今後の方針)

地方財政法第7条の規定に基づき、決算剰余金の2分の1の積立を行う一方で、生産年齢人口の減少等による税収の落ち込み、高齢化の進展に伴う社会保障費の増加、市町村合併に伴う財政優遇措置（普通交付税合併算定替による特例措置）の終了により財源の減少が見込まれることから、今後においても減少していく見込みである。

減債基金

(増減理由)

運用利子（458千円）の積立のみであり、前年度とほぼ同額となった。

(今後の方針)

今後の公債費の推移を勘案し、必要に応じて今後の方針について検討を行う。

その他特定目的基金

(基金の使途)

- ・新庁舎整備基金：新庁舎の整備に備えるため
- ・合併振興基金：市民の連帯の強化又は地域振興のための事業費用に充てるため
- ・公共施設等有効活用基金：公共施設等の有効活用に要する財源を確保することにより、公共施設等の整理統合に伴う再編整備及び長寿命化並びに効率的な運用を行うため

(増減理由)

- ・公共施設等有効活用基金：有形固定資産減価償却率が比較的低いことから施設老朽化の度合いが低いと判断できる一方で、今後の老朽化に向けた対策事業に備えるため、3億円積み立てたことによる増加
- ・新庁舎整備基金：2023年度までに予定する新庁舎整備に備えるため、1億2,000万円積み立てたことによる増加
- ・子ども未来基金：民間保育施設等整備事業の財源として2,051万円を取り崩したことによる減少

(今後の方針)

- ・新庁舎整備基金：2023年度までに予定する新庁舎整備のため、予算の範囲内で積立を行うとともに、新庁舎整備事業のために取崩しを行う
- ・合併振興基金：2023年度までに予定する新庁舎整備事業のため、取崩しを行う予定である

(12) 市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

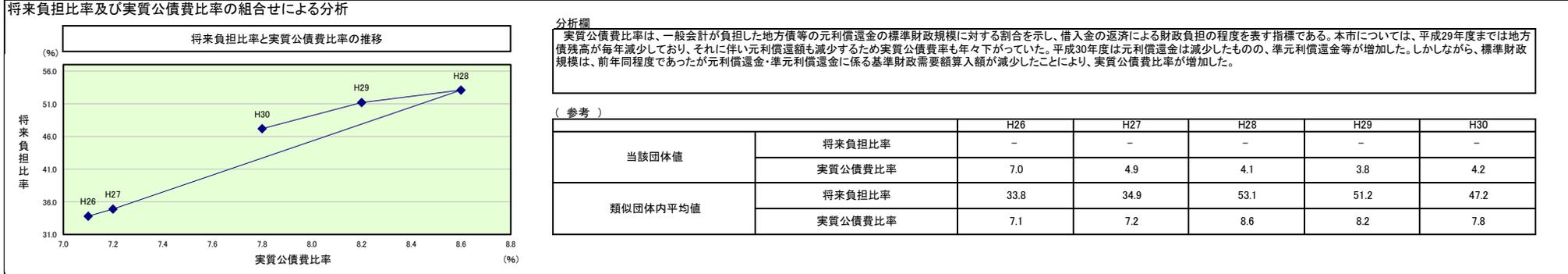
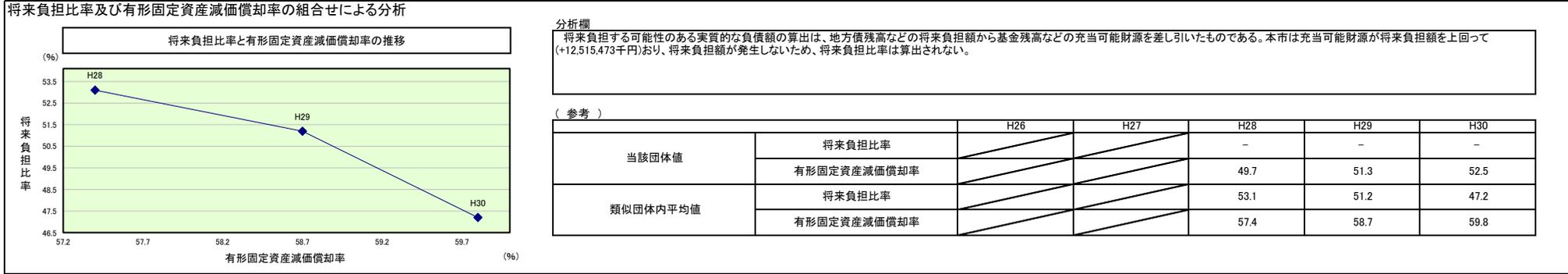
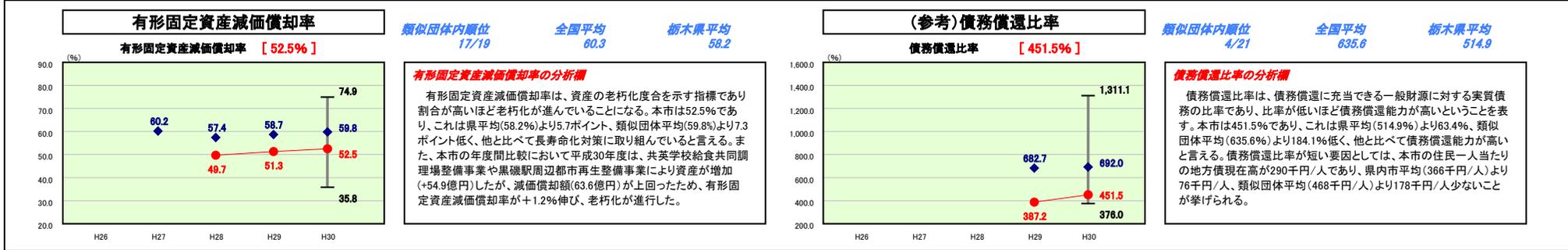
平成30年度

栃木県那須塩原市

人口	117,653人 (H31.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	115,556人 (H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	592.74 km ²	実質公債費比率	4.2 %
歳入総額	51,837,102千円	将来負担比率	- %
歳出総額	49,341,186千円	市町村類型	H26 III-1 H27 III-1 H28 III-1
実収支	2,127,827千円	(年度毎)	H29 III-1 H30 III-1
標準財政規模	27,414,501千円		
地方債現在高	34,189,613千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※ 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出してない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。



(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

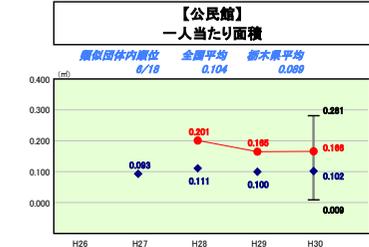
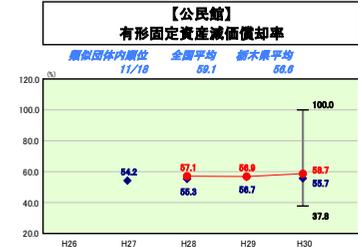
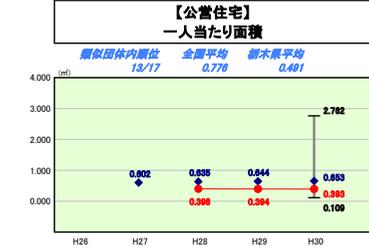
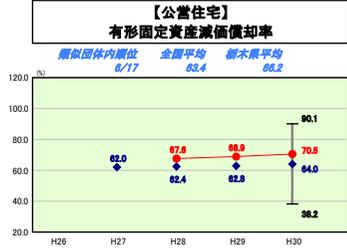
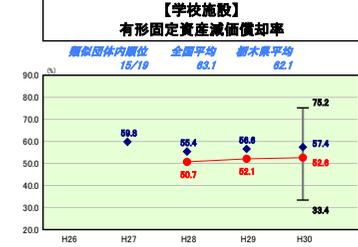
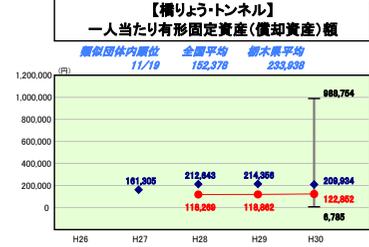
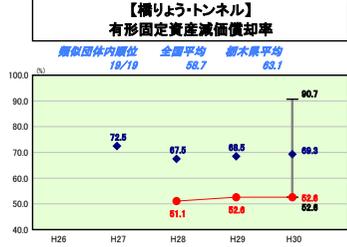
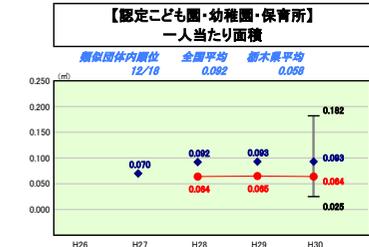
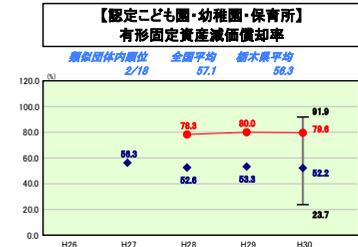
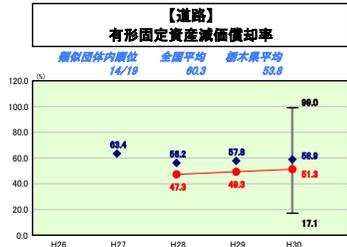
平成30年度

栃木県那須塩原市

人口	117,663	人(091.1.1現在)	実質赤字比率	-	%	
うち日本人	116,656	人(091.1.1現在)	道庁実赤字比率	-	%	
面積	592.74	km ²	実質公債費比率	4.2	%	
歳入総額	51,837,102	千円	将来負担比率	-	%	
歳出総額	49,341,186	千円	市町村類型	H26 Ⅲ-1	H27 Ⅲ-1	H28 Ⅲ-1
実質収支	2,127,827	千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-1	H30 Ⅲ-1	
標準財政規模	27,414,501	千円				
地方債現在高	34,169,819	千円				



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



施設情報の分析

【道路】や【橋りょう・トンネル】のインフラ資産については、老朽化度は低いが、近年、落橋や天井落下などの危険が指摘されているため、平成30年度に道路施設長寿命化修繕計画を策定し、定期的な点検を行い計画的な改修工事を実施していく。
 【公営住宅】と【認定こども園・幼稚園・保育所】については、老朽化度合いが進んでいる。そのため、公営住宅については市営住宅長寿命化計画に基づき、社会资本整備総合交付金を活用しながら、順次改修を進めている。また、公立保育園については、令和元年度に昭和49年築のいなむら保育園について移転し民営化を実施した。令和元年度に第2期保育園整備計画を策定し、引き続き公立保育園の民営化を推進していく予定である。
 【学校施設】と【公民館】については、一人当たりの面積が、全国平均、県平均や類似団体平均のいずれも上回っている状況である。令和元年度に教育施設長寿命化計画を策定し、統合や集約化などを検討し、整備費用や経常経費の削減を図っていく。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

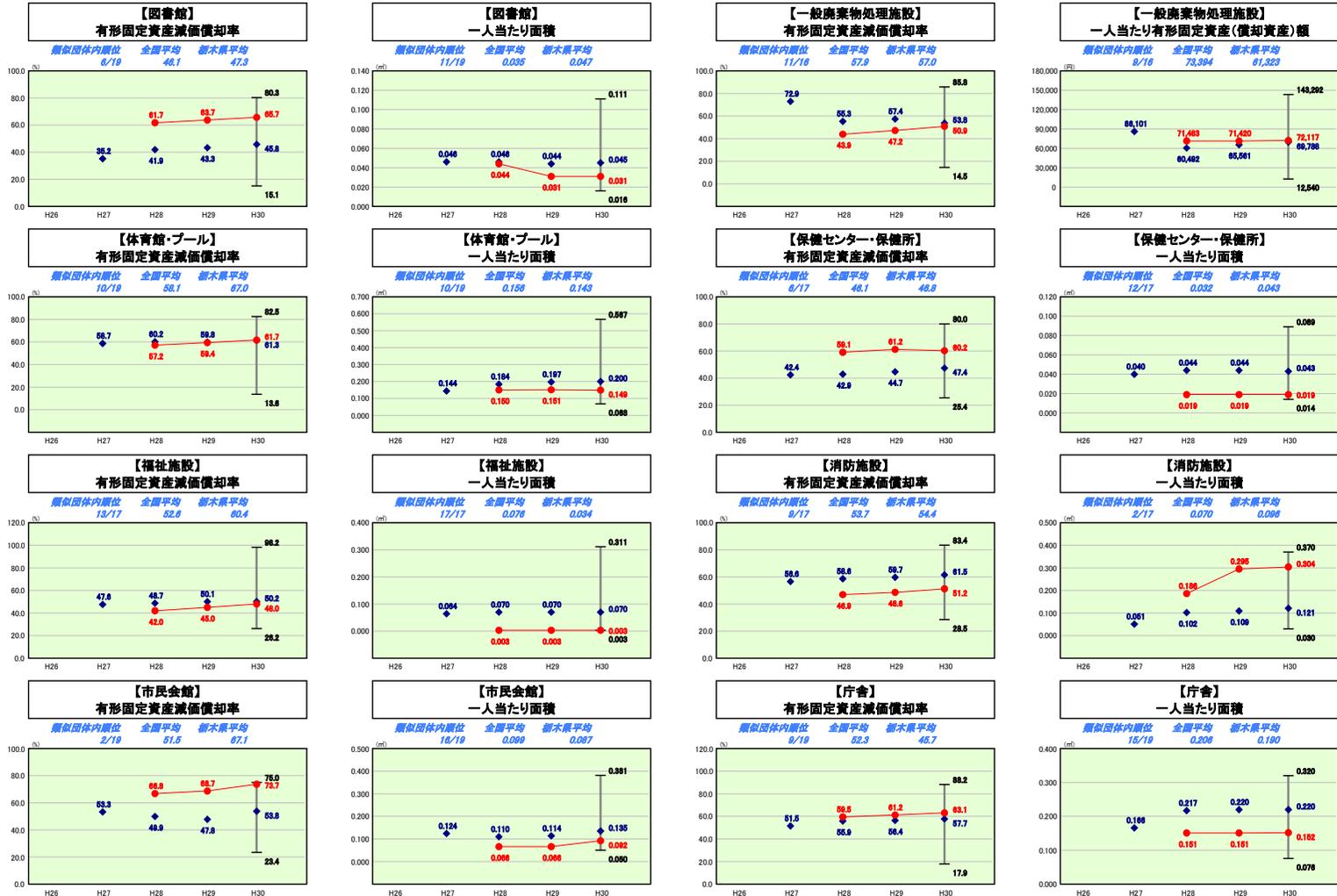
平成30年度

栃木県那須塩原市

人口	117,663	人(981.1/1調査)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	116,656	人(981.1/1調査)	道庁実赤字比率	-	%
面積	592.74	km ²	実質公債費比率	4.2	%
歳入総額	51,837,102	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	49,341,186	千円	市町村類型	H26 Ⅲ-1 H27 Ⅲ-1 H28 Ⅲ-1	
実質収支	2,127,827	千円	(年度毎)	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1	
標準財政規模	27,414,501	千円			
地方債現在高	34,169,619	千円			

- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ⊥ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



施設情報の分析

【図書館】については、老朽化度合いが高いが、昭和61年築の黒磯図書館を黒磯駅周辺にぎわいを創出し、駅を中心に都市の再興を目指す都市再生整備計画において駅前図書館として令和元年度に整備したため、改善が図られる見込みである。
 【市民会館】についても、老朽化の度合いが高くなっている。施設としては、昭和57年築の黒磯文化会館と昭和61年築の三島ホールであるが、2施設とも計画的な改修を実施しており、黒磯文化会館においては、平成30年度に耐震補強工事を実施しており、長寿命化を図っている。
 【庁舎】についても、老朽化度合いが全国平均、県平均や類似団体平均を上回っている状況であり、住民一人当たりの面積も少ない結果となっている。なお、新庁舎については、現在策定中の那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの中で検討していくこととしている。